

欧亨利《麦琪的礼物》（中英日）PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/252/2021_2022__E6_AC_A7_C2_B7_E4_BA_A8_E5_88_c105_252006.htm 1ドル87セント。それで全部。しかもそのうち60セントは小でした。小は一回のい物につき一枚か二枚ずつ浮かせたものです。乾物屋や八百屋や肉屋に理矢理まけさせたので、しまい、こんなに切るなんてという言の非でが赤くなるほどでした。デラは三回数えてみました。でもやっぱり1ドル87セント。明日はクリスマスだというのに。これでは、まったくのところ、粗末な小椅子に突っ伏して泣くしかありません。ですからデラはそうしました。そうしているうちに、人生というものは、わあわあ泣くのと、しくしく泣くのと、微笑みとでできており、しかも、わあわあ泣くのが大部分を占めていると思うようになりました。この家の主が第一段から第二段へと少しづつ移行しているに、家の子をておきましょう。ここは8ドルの家具付きアパートです。全く舌に尽くしがたいというわけではないけれど、浮浪者一部にをつけるためにアパートという名前をつけたにありません。下には便受けがありましたが入る子はなく、呼びはありましたが人の指ではらせそうもありません。その上には「ミスタ#12539.ディリングラム#12539.ディリングラム#12539.ディリングラム#12539.ソフロニ。ヘア用品なら何でも。」といてありました。デラは段を一つかけのぼり、胸をどきどきさせながらも持ちを落ち着けました。女主人は大柄で、色は白すぎ、冷やかで、と

うてい「ソフロニ」という名前のようにはえませんでした。「をってくださいいますか」とデラはねました。「うさ」と女主人は言いました。「帽子を取ってせなさいよ」褐色のがさざなみのようにこぼれ落ちました。「20ドル」手れた手つきでを持ち上げて女主人は言いました。「すぐにください」とデラは言いました。ああ、それから、薔のような翼にって2がぎていきました。...なんて、使い古された比は忘れてください。デラはジムへのり物を探してお店を巡っておりまして。そしてとうとうデラはつけたのです。それはかにジムのため、ジムのためだけに作られたものでした。それほどすばらしいものはどの店にもありませんでした。デラは全部の店をひっくり返さんばかりにたのですから。それはプラチナので、デザインはシンプルで上品でした。ごてごてしたりではなく、素材のみがそのを主していたのです -- すべてのよきものがそうあるべきなのですが。そのは彼のにつけるのにふさわしいとまで言えるものでした。そのをたとたん、これはジムのものだ、とデラにはわかりました。このはジムに似ていました。寡だが、がある -- この表はとジムの者に当てはまりました。そのには21ドルかかり、デラは87セントをもって家に急いでりました。このをにつければ、どんな人の前でもちゃんとをにすることができるようになるでしょう。はずばらしかったのですが、の代わりに古い皮をつけていたため、ジムはこそこそとるときもあったのです。デラが家に着いたとき、はやや醒め、分と理性がをもたげてきました。ヘアアイロンを取り出し、ガスを着けると、に前の良さを加えて生

じた被害のを修する作にかかりました。そういうのはいつも大な仕事なのですよ、ねえあなた -- とてつもなく大きな仕事なのですよ。40分のうちに、デラのは小さく集まったカルで覆われました。型のせいで、まるで、ずる休みした学童みたいにえました。デラは、にうつる自分の姿を、い、注意深く、ためつすがめつつめました。「わたしのことをしはしないだろうけれど」とデラは独り言をいいました。「ジムはわたしのことをるなり、コニア일랜드のコーラスガルみたいだって言うわ。でもわたしに何ができるの -- ああ、ほんとうに1ドル87セントで何ができるっていうの？」7にはコヒの用意ができ、フライパンはストブの上ののり、チョップをくができました。ジムはしてれることはありませんでした。デラはのを手の中で二重にき、彼がいつも入ってくるドアの近くのテブルの隅に座りました。やがて、ジムがはじめの段を上ってくる足音がこえると、デラは一瞬が青ざめました。デラは日のちょっとしたことでも小さな祈りを静かに唱えるがりましたが、このときは「神さま。どうかジムがわたしのことを今でもかわいいと思ってくれますように」とささやきました。ドアがき、ジムが入り、ドアをめました。ジムはやせていて、生真面目なつきをしていました。かわいそうに、まだ22なのに -- 彼は家庭を背っているのです。新しいオバも必要だし、手袋もしていませんでした。ジムは、ドアの内で立ち止まりました。うずらのいにじっとしている犬と同じように、そのままきませんでした。ジムの目はデラに付けでした。そしてその目にはみ取ることのできない感情がめられて

いて、デラは恐くなってしまいました。それは怒ではなく、でもなく、拒否でもなく、恐怖でもなく、デラが心していたどんな感情でもありませんでした。ジムはにその奇妙な表情を浮かべながら、ただ、じっとデラをつめていたのです。デラはテブルを回ってジムの方へみ寄りしました。「ジム、ねえ、あなた」デラは声をあげました。「そんなしてないで。の毛は切って、っちゃったの。だって、あなたにプレゼント一つあげずにクリスマスをごすなんてできないんだもの。はまた伸びるわ-- にしない、でしょ？ こうしなきゃ目だったの。ほら、わたしのってすごく早く伸びるし。『メリ・.クリスマス』って言ってよ、ジム。そしてしくごしましょ。どんなに素な-- で素なプレゼントをあなたに用意したか、当てられないわよ」「を切ったって？」とジムは苦しつつねました。まるで、命にをかせても明白な事にたどり着けないようなありさまでした。「切って、っちゃったの」とデラは言いました。「それでも、わたしのこと、わらずに好きでいてくれるわよね。がなくても、わたしはわたし、よね？」ジムは部屋をさがしものでもするかのようにまわしました。「がなくなっちゃったって？」ジムは何だか鹿になったように言いました。「探さなくてもいいのよ」とデラは言いました。「っちゃったの。だから、-- っちゃったからなくなったのよ。ねえ、クリスマスイブでしょ。しくして。がなくなっただのは、あなたのためなのよ。たぶん、わたしのの毛の一本一本まで神には数えられているでしょうね」デラは急に真面目になり、しくけました。「でも、わたしがあなたをどれだけしてい

るかは、にもはかることはできないわ。チョップをかけてもいい、ジム？」ジムはぼうっとした状からはっとり、デラを抱きしめました。さて、それではここで10秒、趣をえたささやかな事柄について控え目に吟味をしてみましょう。8ドルと年100万ドル--そのいは何でしょうか。数学者や知者にねたら、った答えが返って来るでしょう。方の者は高なり物を持ってきましたが、その中に答えはありませんでした。何だか暗いことを申しましたが、ここで述べた言明は、後にはっきりと光りくことになるのです。ジムはオバのポケットから包みを取り出すと、テブルに投げ出しました。「ねえデラ、のことを勘いしないで。型とか肌剃とかシャンプとか、そんなものでのかわいい女の子を嫌いになったりするもんか。でも、その包みをけたら、はじめのうちしばらく、どうしてがあんなだったかわかると思うよ」白い指がすばやくをちぎりを破りました。そして喜の叫びが上がり、それから、ああ、ヒステリックなときへと女性らしくすぐさまわっていったのです。いそいで、そのアパトの主人が必死になって慰めなければなりませんでした。包みの中には(くし)が入っていたのです--セットになったで、横と後ろに刺すようになっているものでした。そののセットは、デラがブロードウェイのお店ので、いあがめんばかりに思っていたものでした。美しい、ピュアな甲でできていて、宝石で取りがしてあって--ってなくなった美しいにぴったりでした。そのが高だということをデラは知っていました。ですから、心のうちでは、そのがただもう欲しくて欲しくてたまらなかつたのですけれど、に

手に入るなんていう望みはちっとも抱いていなかったのです。そして、いま、これが自分のものになったのです。けれども、このりによってられるべきの方がすでになくなっていました。しかし、デラはを胸に抱きました。そしてやっとの思いで濡れた目をあげ、微笑んでこう言うことができました。「わたしのはね、とっても早く伸びるのよ、ジム！」そしてデラは火でかかれた小猫のようにジャンプして声をあげました。「きゃっ、そうだ！」自分がもらう美しいり物をジムはまだしていないのです。デラは手のひらにり物をせ、ジムに思いをめて差し出しました。金属の光は、デラのくばかりの心な持ちを反射しているかのようでした。「ねえ素じゃない？ 町中を探してつけたのよ。あなたのにこのをつけたら、一日に百回でもをべたくなるわよ。、してよ。このをつけたらどんなになるかたいの」デラのこの言にはわず、ジムは椅子にどさりと腰を下ろし、手を首の後ろにんでにっこりと微笑みました。「ねえデラ。のクリスマスプレゼントは、しばらくの、どこかにしまっておくことにしようよ。いますぐ使うには上等すぎるよ。をうお金を作るために、はをっちゃったのさ。さあ、チョップを火にかけてくれよ」方の者は、ご存知のように、い人たちでした -- すばらしくい人たちだったんです -- 桶の中にいる御子にり物をんできたのです。方の者がクリスマスプレゼントをる、というを考え出したのですね。彼らは明な人たちでしたから、もちろんり物も明なものでした。たぶんり物がだぶったりしたときには、の品と交をすることができる特典もあったでしょうね。さて、わたくしは

これまで、つたないながらも、アパートに住む二人の愚かな子供たちに起こった、平凡な物をおしてまいりました。二人は愚かなことに、家の最もすばらしい宝物を互いのために台しにしてしまったのです。しかしながら、今日の者たちへの最後の言として、こう言わせていただきます。り物をするすべての人の中で、この二人が最も明だったのです。り物をやりとりするすべての人の中で、この二人のような人たちこそ、最もいい人たちなのです。世界中のどこであって、このような人たちが最高の者なのです。彼らこそ、本当の、方の者なのです。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com